

ゲノム・プロテオーム解析によるがんの バイオマーカーと創薬標的分子の開発

日時：2011年2月14日（月）18:00～

場所：外来診療棟4F 第二会議室



山田 哲司先生

国立がん研究センター研究所
副所長・創薬臨床研究分野長

第35回シグナル伝達医学 グローバルCOE学術講演会

<要旨>

がんは多彩な病態をしめし、同じ臓器の同じ組織型、同一の進行病期のがんであっても、個々の症例によって臨床経過が大きく異なる。根治的な手術後であっても一部の症例は転移・再発するし、同一の化学療法・分子標的治療を行っても、得られる効果や副作用は症例間で異なる。しかし将来の臨床経過や薬剤への応答性を事前に予測することができないため、すべての症例に対して画一的な治療が行なわれているのが現状である。

バイオマーカーとは生理的な状態、疾患の病態の変動や、様々な治療に対する反応などと相関する血液、尿、組織などの生体試料から得られる何らかの客観的な指標をさす。さらに特定の医薬品の効果や毒性と明確な関係を示すものをコンパニオン・バイオマーカーと呼び、分子標的治療薬の開発初期段階より並行して開発を進めることが推奨されている。

我々は大規模なゲノム・プロテオーム解析を行い、胃に原発する消化管間質腫瘍の術後再発（文献1）、膵がん患者の予後（文献2, 4）、肺腺がん患者の予後、骨肉腫の肺転移、抗がん剤ゲムシタピンによる血液毒性（文献3）、食道がんの放射線化学療法への治療抵抗性を予測できるバイオマーカーを見出してきた。

本学術講演会では、このようなゲノム・プロテオーム解析による我々のバイオマーカー開発とシグナル伝達を標的とした創薬戦略（文献5）について紹介する。

担当：消化器内科学分野 吉田 優（PHS：2579）

連絡先：「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」

シグナル伝達医学グローバルCOE事務局 担当・丸山

TEL：078-382-5200

E-mail：gcoestm@med.kobe-u.ac.jp

